

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	46	学校名	静岡県立藤枝東高等学校（全）	校長名	森谷 幹子
------	----	-----	----------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
(1)	学ぶ意欲を高める授業や探究力を育む教育の実践により、生徒の学力向上を図る。	「学ぶ意欲を引き出す、学力が向上する授業が行われている」と回答する生徒・保護者 85%以上	「学ぶ意欲を引き出す、学力が向上する授業が行われている」と回答した生徒 90%、保護者 90%	A	各教科で授業改善を進め、端末活用と環境整備により主体的な学習が広がった。基礎重視と目標提示で学力と意欲が向上し、PDCAの定着で達成感も高まった。今後はICT活用を広げ、内容精選や振り返りを工夫して指導の質を高める。
		公開授業を年間2回以上実施した教員 100% 授業参観を自教科、他教科問わず年間4回以上実施した教員 100%	公開授業を年間2回以上実施した教員 100% 授業参観を自教科、他教科問わず年間4回以上実施した教員 54.1%	B	全教員が単元全体を見通した授業計画を立て、授業改善を意識した授業公開を2回以上行った。 授業参観推進期間を設けたが、今後は年間を通しての参観しやすい雰囲気づくりと学び合いの充実を目指したい。
		授業において生徒がICTを効果的に活用したと回答する教員 85%以上	授業において生徒がICTを効果的に活用したと回答した教員 97%	A	校内無線環境の整備や生成AI、Google Classroomの活用により、授業効率化と個別最適な学びを実現し、生徒の主体的な学習を促進できた。今後は目的に応じて最適なICTツールを選択できるように、活用の幅をさらに広げていく。
		「適切な量の課題が出されている」「学ぶ意欲を引き出す、学力が向上する補講が行われている」と回答する生徒 75%以上	「適切な量の課題が出されている」と回答した生徒 87% 「学ぶ意欲を引き出す、学力が向上する補講が行われている」と回答した生徒 92%	A	教務課と各教科が連携し、無理のない課題設定と自主性の育成を進めた結果、関心・意欲や学力の維持向上に成果が見られた。 今後も教員間の連携を取りながら、課題の「量から質」への転換や教材精選、生徒の実態に合わせた補講を提供することで生徒の学力向上を図りたい。
		「教科への関心・意欲が高まり学力や技能の向上が実感できた」と回答する生徒 80%以上	「教科への関心・意欲が高まり学力や技能の向上が実感できた」と回答した生徒 86%	A	実習や対話型学習、PDCAの定着により、昨年度より肯定的な回答が増加し、学習への意欲や達成感の向上が見られた。次年度は指導法や実習内容をさらに工夫し、学力や技能の向上を実感できる場を増やしたい。
		「8つの力」の伸長が自覚できる生徒 100%	「8つの力」の伸長が自覚できていると回答した生徒 90%	B	探究活動や進路活動を通じて「8つの力」を意識する生徒が昨年より増え、主体的に将来を考える姿勢が高まった。今後も効果的な振り返りを通して、全員が自覚できる指導を継続したい。

(2)	生徒一人一人が高い志を持ち、その進路実現のための個に応じた支援を行う。	「志を育む指導が行われている、進路に関する情報が適切に提供されている」と回答する生徒・保護者 85%以上	「志を育む指導が行われている」と回答した生徒 91%・保護者 89% 「進路に関する情報が適切に提供されている」と回答した生徒 90%・保護者 81%	B	各教員が工夫して授業計画を立て実行した結果、高い評価につながり、進路指導方針もおおむね良好に維持できた。今後はC-learning等を活用し、家庭ごとのニーズに応じた情報共有や、質問しやすい体制づくりを進め、よりきめ細かな進路支援の充実を図っていききたい。
		「進路実現に向けての学力向上、理解向上に役立った」と回答する生徒の割合が前年度より増加する。	「学力が向上する講習が行われている」と回答した生徒は 93%(前年 92%)	A	前年度と同様に高い評価を維持できた。外部講師による放課後や夏期講座への満足度も高水準を維持している。今後も質の高い指導体制を継続し、生徒の学力向上と学習意欲のさらなる伸長につなげていきたい。
		OB講話等に対する生徒の肯定的な回答 80%以上	OB講話(文化講演会)に対する生徒の満足度 76%	B	進路や将来について考えるよい機会となった。事前準備や実施方法(今年度はリモート)を見直し、充実した講演を開催していく。
(3)	様々な教育活動を通じて、多様な価値観を尊重し、豊かな感性と人間性を育む。	図書委員による読書推進活動年4回以上 図書館を利用した生徒数が前年度よりも増加する 生徒と教職員による広報誌年間20回以上発行	図書委員による読書推進活動年4回以上実施 図書館を利用した生徒数が前年度よりも増加 生徒と教職員による広報誌年間20回以上発行	A	季節ごとのキャンペーンを通して来館意欲を高め、図書おみくじや読書の木など新しい企画で委員会活動の幅を広げた。授業利用の促進や広報誌の継続発行により利用機会が増加した。今後は企画の定着や参加率向上、広報内容の質の充実を目指したい。
		「8つの力」の伸長が自覚できる生徒 100%	「8つの力」の伸長が自覚できていると回答した生徒 90%	B	生徒会中心に主体性を重視した行事を支援し、多くの生徒が成長を実感した。今後は行事精選と種目改善、意識づけの声掛けで全員の充実を目指す。
		参加した生徒の満足度 90%以上	演劇教室の生徒満足度 99% 文化講演会の生徒満足度 76%	A	演劇教室の満足度がほぼ 100%と非常に高かった。この成果を継続できるよう、生徒の興味・共感を得る適切な演目や講師を選定したい。
		「部活動に意欲的に取り組んだ、活動内容や時間が適切である」と回答する生徒・保護者 90%以上	「部活動に意欲的に取り組んだ」と回答した生徒 93% 保護者 92% 「活動内容や時間が適切である」と回答した生徒 90% 保護者 86%	A	生徒・保護者ともに高い満足度が示され、部活動への意欲や活動内容の適切さが成果として確認できた。今後は、部活動の地域移行や任意加入化を契機として、学校教育における部活動の新たな役割を明確にし、より充実した活動の在り方を検討・推進していく。
		校外活動への参加生徒数が前年度よりも増加する。	生徒会・部活動単位で地域社会貢献の校外活動へ参加した。	B	生徒会・JRC部を中心に募金活動を継続し、被災地支援の機会を確保できた。今後は具体的な取組を工夫し、全生徒に地域貢献意識を広げていく。
		参加した生徒の満足度 90%以上	修学旅行の生徒満足度 94% 学校主催の海外研修参加生徒の満足度 100%	A	学校主催の諸行事に高評価を得るとともに、英語プレゼン大会参加や多国籍留学生受入により実践的な国際交流の機会を拡充できた。渡航費等物価高騰に伴う国際交流費用の捻出が課題であるが極力活動を継続していききたい。

様式第3号

(4)	日々の生活において「誠」を尽くし、逞しい心と体を育み、主体的に活動する力を養う	全教職員による街頭（登校）指導実施年3回 自転車による登下校中の事故年間20件以下	全教職員による街頭（登校）指導実施年3回 自転車による登下校中の事故年間16件	A	街頭指導と交通安全指導の継続により、事故件数は前年を下回り一定の成果が見られる。今後も家庭・地域と連携し、事故防止に向けた指導を強化していく。
		「高校生活について適切に指導が行われている」と回答する生徒・保護者90%以上	「高校生活について適切に指導が行われている」と回答した生徒90% 保護者95%	A	日々の学校生活において自律を促す指導が一定の成果を上げている。学校全体で一貫性のある指導、将来の社会的リーダー育成を見据えた生徒の心に響く指導を目指していく。
		生徒の参加数が前年度よりも増加する。	部活動や教科での外部のコンクールやイベント等への積極的な参加が見られた	B	校外活動の募集が増えているため、C-learning等を使用し、広報を行い、個人の参加者を増やしていきたい。今後は参加状況の把握も進めていく。
		いじめによる不登校及び生徒指導0件 「頼れる先生がいる」と回答する生徒・保護者が85%以上	いじめによる相談が複数件あった。 「頼れる先生がいる」と回答した生徒93%、保護者92%	A	発達支持的指導の充実を図り、生徒が適切な人間関係作りや、社会の一員としての自覚が醸成される指導を継続的に実施する。また、いじめ等に関する相談には、学校全体で、迅速に適切に対応し、生徒が安心して学校生活を送ることができるようにする。
(5)	保護者・外郭団体・地域等との連携により、存在感ある学校を実現する。	「東高に入学してよかった」と回答する生徒・保護者85%以上	「東高に入学してよかった」と回答した生徒95% 保護者98%	A	生徒・保護者共に高い評価を得た。今後も、教員のみならず、外部機関との連携を図り、手厚い指導を心掛けていきたい。
		「情報を適切に伝えている」と回答する生徒・保護者95%以上 地域の中学校への訪問年間3回以上 報道部生徒によるポスター及び卒業生等出演の学校PR動画の作成が実現する。	「情報を適切に伝えている」と回答した生徒94% 保護者97% 地域の中学校へ年間3回以上訪問 報道部制作の新聞、卒業生出演の学校PR動画を一日体験入学等で活用した。	A	ホームページ・インスタグラム・YouTubeなど複数の媒体を活用し、教員や生徒による発信、地域中学校訪問の継続により、開かれた学校づくりを進めることができた。今後も各分掌・教科・部活動等と連携して学校生活の様子を広く紹介していく。また、他校との差別化を意識した情報発信の在り方も検討していきたい。
		総会や各種行事の出席率50%以上 「参考になった（良かった）」と回答する保護者95%以上	PTA 総会出席率48% PTA 進路後援会参考になったと回答した保護者97.9%	A	PTA総会の出席率は早めの告知をすることで昨年と比べて12%向上した。進路講演会は新たな企画（卒業生の保護者による座談会）も加え、高評価を得ることができた。

様式第3号

		「校舎、グラウンド等の施設や設備は適切に整備されている」と回答する生徒・保護者 80%以上	「校舎、グラウンド等の施設や設備は、適切に整備されている」と回答した生徒 96%、保護者 95%	A	トレーニングルームや千南原会館等の整備など、同窓会等と連携して 100 周年記念事業に係る施設整備を行うことができた。今後も安全な施設整備を実施していく。
		「来校目的を達成することができた良かった」と回答する来校者 100%	公開授業で 99% が参考になったと回答した。 1 日体験入学も好評であった。	A	今年度も生徒によるパネルディスカッションや説明が好評であった。 来年度も生徒が本校の魅力を伝えるような場面を設定したい。
(6)	教育環境の整備・充実及び心理的安全性が確保された学校づくりを進める。	「生徒の健康や安全に配慮がされている」と回答する生徒・保護者 95%以上	「生徒の健康や安全に配慮がされている」と回答した生徒 95% 保護者 94%	A	保健委員会活動の活性化やピア活動の充実により、生徒の健康意識を高めることができた。今後も保護者・生徒に学校の取組を丁寧に伝え、安心感を高める工夫をしていきたい。
		「校舎、グラウンド等の施設や設備は適切に整備されている」と回答する生徒・保護者 80%以上	「校舎、グラウンド等の施設や設備は、適切に整備されている」と回答した生徒 96%、保護者 95%	A	ゴミの量を前年比 78%まで削減することができ、新校舎の清掃用具についても適切な補充を行い、衛生的な環境を維持できた。今後も学習環境の質を安定的に保つため、管理体制の見直しと継続的な環境整備に努めていく。
		地域防災訓練の参加率向上 「災害・非常時の避難方法や連絡方法を承知している」と回答する生徒・保護者 80%以上	参加状況 31.2% (昨年 40.7%) 「災害・非常時の避難方法や連絡方法を承知している」と回答した生徒 90% 保護者 89%	B	校内の避難訓練等を確実に実施することにより、非常時における避難方法や連絡方法の周知を徹底することができた。地域防災訓練の日程が自治体ごとに異なるため、今後は自治体と連携し、訓練日程の周知を図ることで、生徒の参加率の向上に努めたい。
		情報セキュリティインシデント未発生	情報セキュリティインシデント発生はなかった。	A	情報セキュリティに関する問題はなかった。事務処理の手順等においては見直しをし、改善に努めていく。
		教職員の時間外勤務時間が前年度よりも減少する。	教職員の時間外勤務時間が前年度よりも若干増えた。	B	百問繚乱やC-learningの活用により採点負担が軽減された。今後は業務改善を推進し、学校全体で更なる働き方改革と ICT 活用の定着を図っていきたい。
		「校舎、グラウンド等の施設や設備は適切に整備されている」と回答する生徒・保護者 80%以上	「校舎、グラウンド等の施設や設備は、適切に整備されている」と回答した生徒 96%、保護者 95%	A	学校経営予算や維持補修予算の執行に当たっては、優先順位を付け、教育効果が高いと認められるものから執行した。今後も生徒の安全とよいよい学校運営のために迅速な対応に努める。